

開校49周年 児童一人ひとりを確実に伸ばす慈林小学校～あいさついっぱい 元気いっぱい やさしさいっぱい 学びいっぱい～



慈林小だより



令和7年度 2月号 令和8年1月30日(金)

「慈林愛」

校長 石原 昌治

川口市といえば、皆さんは何を思い浮かべますか？「安行の植木」と並んで、「鋳物（いもの）産業」を挙げる方が多いかもしれません。実は、慈林小学校の玄関には、鋳物でつくられたその年の干支を飾っています。とても精巧で美しいので、長い歴史に裏打ちされた高い技術力に毎年感心しています。

興味深いのが、干支の置物とセットになっている木札です。この木札には、その年のテーマが書かれています。今年のテーマは、ずばり「慈愛（じあい）」でした。言うまでもなく、慈林小学校の「慈」と同じ字が使われていますが、私はこの「慈（いつく）しむ」という言葉がとても好きです。「慈しむ」を改めて調べてみたところ、「かわいがって、大切にする」（出典：大辞林 第三版）という意味が出てきました。



株式会社モリチユウ製作

1月28日に実施したシャトルラン大会では、児童同士で「まだがんばれるよ！」「目標達成できたね！」という、友達を慈しむ温かい声援があちこちで飛び交いました。本校の児童と接していると、縦割り活動や委員会活動等で上級生が下級生を慈しむ姿、大切に育てている植物や魚を慈しむ姿など、周りを慈しむ場面をととても多く見かけます。なぜ、本校の児童は慈愛に満ちているのでしょうか。私は、「地域全体が慈愛に満ちている」からだと確信しています。

本校は、PTAボランティアをはじめ、学校運営協議会の皆様、そして学校応援団として授業支援や学校の環境整備をしてくださっている方々、毎日児童の登下校を見守ってくださっている方々など、本当に多くの人達に長年支えられています。無限の「慈林愛」によって、じりん子達を育ててくださっていること、感謝の念に堪えません。

2月10日に、本校は49回目の開校記念日を迎えます。これからも本校は、地域の皆様からいただいた49年分の「慈林愛」をエネルギーにして、

【児童の笑顔があふれ、学ぶ楽しさを知り、好きなことがたくさん見つけられる学校】
【保護者や地域が児童を笑顔で見守り、成長を共に楽しむにし、好感が持てる学校】
【職員が笑顔で児童と共に活動し、学ぶ楽しさを児童と共に味わい、児童の知的好奇心を高めていく学校】
＝「慈林笑楽好」を目指します。

今年度も残り2ヶ月となりました。児童一人ひとりが、個々の良さを最大限に伸ばして進級・進学することができるよう、教職員一同、最後まで児童と真剣に向き合いながら「慈林愛」を貫く所存です。